

調査団報告書

No.97

調査内容

名古屋市内に「水屋（みずや）」と呼ばれる建物があるんだって。水屋って、茶室にくっついている部屋のことじゃないの？

調査手順

私は水屋を、事務所などのお勝手（水場）のことかと思ってました。広辞苑を引いてみましょう。「社寺で手や顔を洗う場所」「茶室の隣室に設けて茶の湯の用意をするところ」という記述に続いて、「しばしば洪水に見舞われる低湿地帯農村で、非常用物資を備え、また避難所とするため、高く土盛りをした敷地の上に建てた特殊な家屋」という記述があります。

水屋についてわかったところで本を検索すると、茶室の水屋の本に交じって、建築の分類の本が見つかりました。『名古屋市内に残存する水屋について』では水屋の解説と、中川区富田町の水屋の写真を見るができます。仏壇を天井に吊り上げる装置、なんてものも！また、『水屋・水塚』には守山区の「東春酒造」の水屋の写真がありました。『守山探検隊まちあるきマップ[5] 瀬古・幸心地区散策コース』の副題は「善光寺街道と水屋を訪ねて」とあります。他、『再発見！なごやの歴史と文化』では「(西区) 中小田井の街並み」の項目に、水屋の記載がありました。

調査結果

「水屋」は、輪中地域で洪水から命や財産を守るためにつくられた建物。『木曾川の水と尾張地域』によると「母屋は草葺であっても水屋は必ず瓦葺」で「中は座敷・米ぐら・みそ部屋・たきぎ部屋などに分かれ、軒には小型の舟がつり下げてあった」そう。低湿地帯で暮らす人たちの知恵と工夫だったんだね！

今回の調査で使った資料

『広辞苑 第7版』新村出／編 岩波書店 2018

『名古屋市内に残存する水屋(みずや)について』名古屋市建築局／編 名古屋市 1960

『水屋・水塚 水防の知恵と住まい』LIXIL出版 2016

『守山探検隊まちあるきマップ[5]』守山探検隊実行委員会 2014

『再発見！なごやの歴史と文化』伊藤厚史／著 なごや歴史文化活用協議会 風媒社 2020

『木曾川の水と尾張地域』千田英元／編 千田英元 1984

